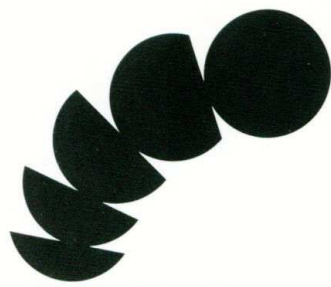


一般研究発表
ポスター発表



JAPAN SOCIETY
ON TENNIS SCIENCE

演題番号:ポスター21

テニスのサービス試技に対する主観的評価とEMGによる筋活動の対応関係

今西平(立教大学),
梅林薫(大阪体育大学)

多くのスポーツ選手は、客観的なパフォーマンス結果を確認しながらも、自身の身体感覚に頼った練習をすることでスキルを高めている。そのため、選手の身体感覚がどれほど正確であるか調査することは、スポーツの練習方法を検討する上で興味深い課題となる。そこで本研究では、テニスのサービス試技を課題として、各試技に対する被験者の主観的な評価得点と、EMGによって得られた筋活動パターンとの対応関係を分析することで、サービス試技に対する身体感覚の正確性を調査することとした。被験者は男子大学生6名(19-21歳、熟練者3名、非熟練者3名)であった。課題とするサービス試技はセンターを狙ったフラットサービスとし、サービスエリアに入ったものを分析用として採用した。EMGは大胸筋、三角筋、僧帽筋、上腕二頭筋、上腕三頭筋、尺側手根屈筋から導出した。試技の主観的評価は、被験者がサービス試技を行なった直後に10段階尺度で評価・回答させた。その結果、熟練者の主観的評価と筋活動パターンは一致するのに対し、非熟練者では一致しなかった。非熟練者の身体感覚の信頼性は低いため、それに応じた練習を検討する必要性を示唆している。